

「家族を守るきずな計画」 災害から 生き残るためのテキスト発行



㈱湘南平塚コミュニティ放送 取締役 放送局長 鈴木 弘之

1 はじめに

1994年7月1日、このまちにコミュニティFM放送局が開局しました。この日に開催された開局を祝う席で、当時の石川京一平塚市長より「これでこのまちにも防災の砦が一つできた」と挨拶されました。まさにナパサの存在意義を的確に表した言葉です。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本対震災、熊本地震と、大きな地震災害が日本に発生しましたが、その度にコミュニティFM放送局地域情報を的確に伝え、復興の大きな礎として、活動し、その重要性は十分に認識しつつあります。特に電気が回復していない状況では、携帯ラジオやカーラジオなどが頼りで、情報手段は限定されてしまいます。しかも、全国向けの報道とは異なる、この地域のためにきめの細

かい情報を発信するのは、まさに放送指針に地域密着を旨とするコミュニティ放送局の機能が最適といわれています。

そしてFM湘南ナパサ開局20周年として「家族を守るきずな計画」災害から生き残るためのテキストを発行しました。

開局20周年という節目を迎え、過去の大震災の現状を振り返り、まだまだ必要とされる事柄を㈱湘南平塚コミュニティ放送局とナパサクラブ（FM湘南ナパサ放送ボランティア）、SCNクラブ（湘南ケーブルネットワーク放送ボランティア）の代表者会議にて作成しました。議論を重ねた結果、最も大きなダメージを受けるのは、ほかでもない、各家庭です。壊れた家や、家財の回復には、大きな支出を伴います。まして、失われた命は替えが効きません。

かけがえのない家族のきずなを維持していくために、災害に対する備えを万全にしておくこそ、被害を最小限に食い止めることになると考えます。何より大規模災害の発生は、地域全体が被災するので、誰かを頼ったりとか、助けてもらえるとかを期待できません。基本は家族が力を合わせて、自分たちの力で、被害を最小限に食い止め、速やかに復旧することが重要です。そのため何をどのような準備したらよいか理解すべきです、望ましい防災計画を立てることの重要性ではないかと会議内で結論しました。一般的な防災の教科書ではなく、100の家族あれば100通りの計画書になるべく、各家族の力を合わせて、家族会議を通して災害を学び、考え、実行を伴う計画づくりの手順書です。

家族を守る きずな計画



2 概要

イ、計画づくりのルール

①全員参加のこと

基本は、同じ目的のために、計画づくりに全力を尽くし、その結果、ますます固いきずなで家族が結ばれることが重要で災害時の困難な状況を打破するには必要不可欠です。

②記録を残す

内輪だからと言って、ナアナアになっては万一の時に役立つ計画はできません。

計画づくりは数回の家族会議できちんと災害発生を想定して、事前から事後の対処についてあらゆる段階を記録としてきちんと残すことが重要です。

③決めたことはみんなで実行する

ロ、防災家族会議の開催（6回）

第1回防災家族会議

地震に対する認識チェック。問題は全7問

（問）90年前の関東大震災の時、平塚ではおよそ150名の人が犠牲になった。（はい、いいえ）

（答）いいえ 木造家屋が多かったこと、また紡績工場の壁の崩壊や火災発生によって、その被害は拡大しました。平塚市の地域での死亡総数は490名とされています。ちなみに、関東大震災の再来型の地震が起きた場合は……

第2回防災家族会議

我が家の耐震診断

災害時に備えるために、耐震チェックをはじめ、家具の固定状態、消火器の有無など
※震度7でも大丈夫なオリジナル家具固定

器具COTYMAN7

起震車にて精度実証済

第3回防災家族会議

防災備品・備蓄リストの作成。



第4回防災家族会議

災害発生時直後を想定と訓練をする計画を立てます。

第5回防災家族会議

災害時の安否確認方法の確認と準備を含めた訓練。

第6回防災家族会議

情報の収集と発信。

3 おわりに

本テキストは平塚市役所防災課及びFM湘南ナパサ関係機関団体等への配布と実際に関係者による自治会等でのテキストを活用した防災研修会等の実施をしています。

コミュニティ放送局の使命は平時から地域との密接なコミュニケーションを取り、地域を観察することが、災害時に「防災の砦」FM湘南ナパサとして、放送エリアの安心と安全に寄与できると確信し、研鑽を積み上げて、いざというその時、その使命をしっかり果たしていきます。

